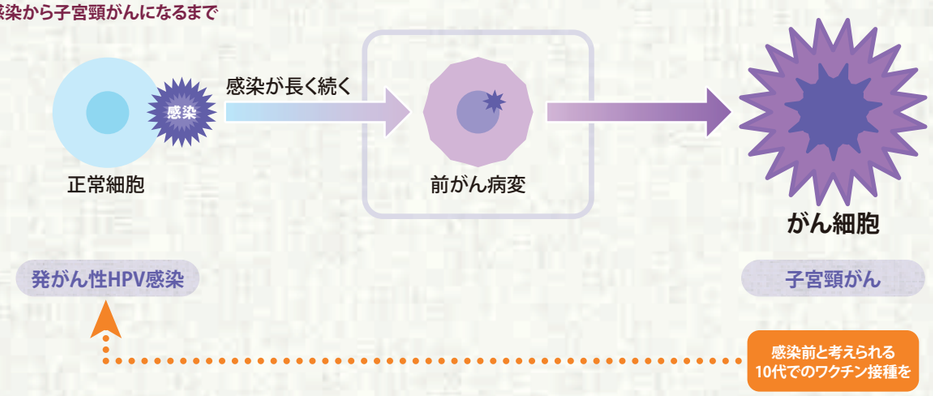
原因ウイルスの感染を防ぐことが重要です。だから10代でのワクチン接種を。

子宮頸がんの原因は、特定のヒトパピローマウイルス（HPV）の感染です。このウイルスに感染しても、多くの場合は自然に体内から排除されますが、長期間感染が続くと、前がん病変を経て、子宮頸がんへ進む場合があります。感染から子宮頸がんになるまでは数年から10数年もかかります。
HPVは、性行為や皮膚の接触などで女性の約8割が一生に一度は感染するごくありふれたウイルスです。ワクチン接種によって既に感染したHPVを排除することはできないため、感染前と考えられる10代のうちにワクチン接種を済ませることが大切です。

感染から子宮頸がんになるまで



野田 起一郎 医師
子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 議長
近畿大学 前学長

私たち産婦人科医は日々、子宮頸がんの患者さんの治療にあたっています。結婚、妊娠、出産、子育てという人生のステージを迎える年齢の女性に、子宮頸がんが引き起こす悲劇を数多く見てきました。それは一瞬にして将来の夢を壊し、多くの悲劇を生む、憎むべき病気です。今私たちは、検診とワクチンという子宮頸がん予防のための極めて有効な手段を手にしています。積極的にこれらを活用することが私たちの責任だと思います。

日本だけが、子宮頸がん罹患率の高い国になってしまう…。

子宮頸がん予防ワクチンは、全世界120ヵ国以上で承認・接種されており、有効性と安全性は広く認められています。世界保健機関（WHO）や世界産科婦人科連合（FIGO）などは、安全性に関するあらゆる情報を検証した上で、継続して子宮頸がん予防ワクチンの接種を推奨するとともに、日本の状況を危惧する声明が出されています。
接種の勧奨が中止され続けることになれば、10数年後、世界でわが国だけが子宮頸がん罹患率の高い国となるおそれがあります。
一刻も早く、安心して接種を受けられる状況を整えることが必要ではないでしょうか。

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議事務局

〒104-0045 東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館5階
http://www.cczeropro.jp/
Eメール　cczeropro@ellesnet.co.jp
TEL 03-3546-2521　FAX 03-5565-4914

作成年月2014年5月

あなたに知ってもらいたい
子宮頸がんのこと。

はじめに

2013年4月に、わが国での定期接種化が実現した子宮頸がん予防ワクチン。その2ヵ月後の6月14日に厚生労働省は、子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みについての十分な情報提供ができるまで、積極的な接種勧奨を一時控えるべきと勧告しました。
接種することによって、将来多くの女性を子宮頸がんから守ることが期待されるワクチン。子宮頸がんという病気がどんなに悲惨なものか、子宮頸がん予防の重要性についての正しい情報が届かないまま、このワクチンに対する不安感が広まっています。
このまま接種率が回復しなければ、10数年後、検診とワクチンの両輪で子宮頸がんを徹底的に予防する諸外国とは反対に、わが国では多くの女性が亡くなったり、手術で子宮を失ったりしている懸念があります。
わが国の女性の未来のために、ワクチン接種と検診が必要です。子宮頸がんの正しい知識をお伝えすることで、不安や誤解を解消していただきたく、この冊子を作成しました。